

海外の畜産物の需給動向

牛肉

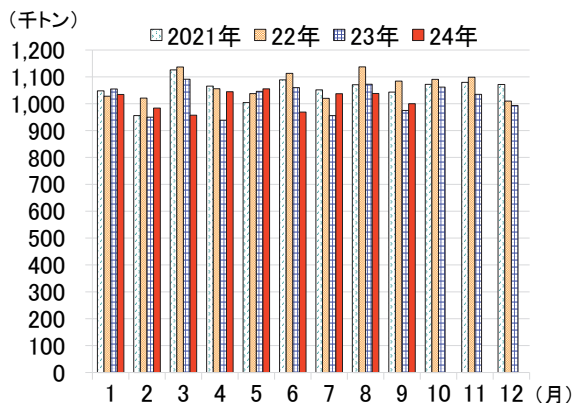
米 国

24年8月の牛肉輸出量は前年同月比8.5%減

24年9月の牛肉生産量、肥育の長期化から前年同月比2.6%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2024年9月の牛と畜頭数は252万4000頭（前年同月比3.3%減）とやや減少した。一方、同月の1頭当たりの平均枝肉重量は肥育期間の長期化から391キログラム（同4.1%増）とやや増加したことで、同月の牛肉生産量は100万トン（同2.6%増）とわずかに増加した（図1）。

図1 牛肉生産量の推移



資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」
注：枝肉重量ベース。

24年9月の肥育牛価格、前年同月比0.4%高

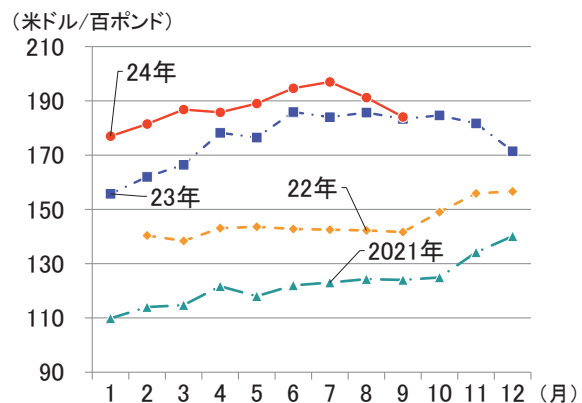
USDA/NASSによると、2024年10月1日時点のフィードロット飼養頭数は1160万

頭（前年同月比0.2%増）と前年並みになった。

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、24年9月の肥育牛価格は100ポンド当たり184.08米ドル（1キログラム当たり628円：1米ドル＝154.64円^注、同0.4%高）と前年同月をわずかに上回ったが、前月比では同3.7%安となり、高い水準ながらも7月をピークに下落傾向で推移している（図2）。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年10月末TTS相場。

図2 肥育牛価格の推移



資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」
注1：ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢。
注2：2022年1月の値は、N/A値。

24年8月の牛肉輸出量は前年同月比8.5%減、輸入量は同26.1%増

USDA/ERSによると、2024年8月の牛肉輸出量は国内生産量が減少する中で、10

万8067トン（前年同月比8.5%減）とかなりの程度減少し、24年1～8月の累計では91万2027トン（前年同期比3.6%減）とやや減少した（表1）。8月の輸出量を主要輸出先別に見ると、首位の日本向けは2万4526トン（前年同月比3.5%減）とやや減少し、続く韓国向けは2万917トン（同12.5%減）、中国向けは1万6878トン（同13.8%減）といずれもかなり大きく減少した。また、輸出量が増加傾向にあったメキシコ向けは1万2273トン（同8.4%減）とかなりの程度減少した。

24年8月の牛肉輸入量は19万1095トン（同26.1%増）と大幅に増加した（表2）。輸入先別では豪州が同国の良好な生産状況を反映し、4万6163トン（同46.3%増）と大幅に増加し、同国からの単月輸入量では今年最大となった。また、ブラジルは3万3048トン（同約2.9倍）、ウルグアイは1万1930トン（同41.8%）とそれぞれ大幅に増加した。24年の輸入量についてUSDAは、豪州や南米地域からの輸入増から、198万8000トン（前年比17.7%増）と前年を大幅に上回ると見込んでいる。

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2023年 8月	24年 8月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	24年 (1～8月)	
					前年同期比 (増減率)	
日本	25,415	24,526	▲3.5%	22.7%	203,564	▲0.2%
韓国	23,917	20,917	▲12.5%	19.4%	185,427	▲11.9%
中国	19,590	16,878	▲13.8%	15.6%	142,416	▲10.0%
メキシコ	13,406	12,273	▲8.4%	11.4%	102,743	10.8%
カナダ	10,766	9,176	▲14.8%	8.5%	80,251	▲4.2%
台湾	7,909	8,196	3.6%	7.6%	60,144	▲3.6%
香港	3,540	3,061	▲13.5%	2.8%	23,975	▲9.1%
その他	13,532	13,040	▲3.6%	12.1%	113,506	5.3%
合計	118,075	108,067	▲8.5%	100.0%	912,027	▲3.6%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注：枝肉重量ベース。計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

表2 輸入先別牛肉輸入量の推移

（単位：トン）

国名	2023年 8月	24年 8月	前年同月比 (増減率)	輸入割合	24年 (1～8月)	
					前年同期比 (増減率)	
豪州	31,552	46,163	46.3%	24.2%	288,343	108.8%
カナダ	38,753	38,032	▲1.9%	19.9%	298,840	19.1%
ニュージーランド	25,201	22,592	▲10.4%	11.8%	197,801	26.2%
ブラジル	11,545	33,048	186.2% (約2.9倍)	17.3%	225,077	53.0%
メキシコ	24,470	23,461	▲4.1%	12.3%	175,118	▲4.2%
ウルグアイ	8,412	11,930	41.8%	6.2%	89,903	104.2%
その他	11,551	15,869	37.4%	8.3%	100,543	50.2%
合計	151,484	191,095	26.1%	100.0%	1,375,625	39.4%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注：枝肉重量ベース。計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

（調査情報部 伊藤 瑞基）

カナダ

牛飼養頭数は減少が続く、24年の牛肉輸出量は前年比4.0%増の見込み

24年7月の牛総飼養頭数、前年比1.4%減

カナダ統計局（Statistics Canada）によると、2024年7月1日時点の牛総飼養頭数は1193万5000頭（前年同月比1.4%減）とわずかに減少し、3年連続で前年を下回った（表1）。内訳を見ると、繁殖雌牛は過去の干ばつの影響により445万4000頭（同1.7%減）となり、そのうち肉用繁殖雌牛は348万5000頭（同2.2%減）とわずかに減少した。未経産牛は185万頭（同0.7%減）とわずかに減少したものの、うち肉用後継牛

は58万6000トン（同0.8%増）と増加に転じた。米国農務省海外局（USDA/FAS）によると、今後、25年初頭にかけて頭数の減少が続くものの、その後は干ばつの改善や飼料価格の下落などから減少に歯止めがかかると予測されている。一方、堅調な肥育牛価格が未経産牛の出荷につながっていることから、牛群再構築は25年以降になるとされている。

24年の牛肉生産量についてUSDAは、飼養頭数が減少傾向にあることから、131万5000トン（同0.8%減）と前年をわずかに下回ると見込んでいる。

表1 牛飼養頭数の推移

（単位：千頭）

区分	2020年	21年	22年	23年	24年	前年比 （増減率）
総飼養頭数	12,575	12,645	12,280	12,110	11,935	▲1.4%
繁殖雌牛	4,757	4,757	4,643	4,530	4,454	▲1.7%
肉用牛	3,787	3,776	3,671	3,564	3,485	▲2.2%
乳用牛	969	980	972	966	969	0.4%
未経産牛	1,989	1,979	1,878	1,863	1,850	▲0.7%
肉用後継牛	684	672	607	582	586	0.8%
乳用後継牛	422	430	419	410	405	▲1.2%
その他	883	877	853	871	858	▲1.5%
去勢牛	1,585	1,636	1,607	1,624	1,635	0.7%
種雄牛	225	223	219	213	210	▲1.5%
子牛	4,019	4,051	3,933	3,880	3,786	▲2.4%

資料：Statistics Canada
注：各年7月1日時点。

24年8月の肥育牛価格、前年同月比7.3%高と高水準で推移

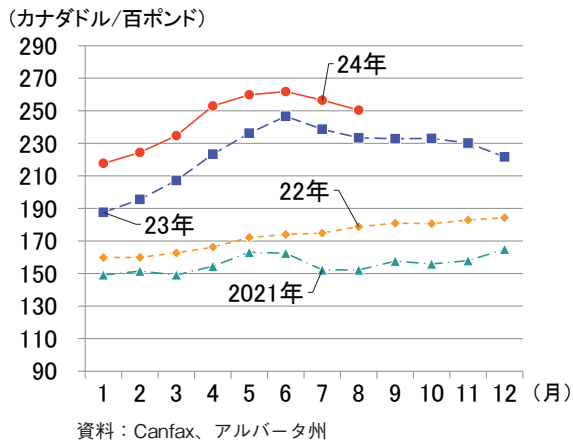
カナダ肉用牛生産者協会の畜産物市況分析部門であるCanFax^(注1)によると、2024年

8月のカナダ（アルバータ州）の肥育牛価格は100ポンド当たり250.38カナダドル（1キログラム当たり618円：1カナダドル＝111.97円^(注2)、前年同月比7.3%高）と前月からわずかに値を下げたものの、前年同月

をかなりの程度上回った（図）。北米での肥育牛供給がひっ迫する中で、同価格は高水準で推移している。

（注1）カナダ肉用牛生産者協会（CCA）の市況分析部門。
（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年10月末TTS相場。

図 肥育牛価格の推移



24年1～8月の牛肉輸出量、前年同期比1.9%増

カナダ統計局によると、2024年8月の牛肉輸出量は3万3969トン（前年同月比2.6%減）とわずかに減少し、同年1～8月の累計では27万5455トン（前年同期比1.9%増）とわずかに増加した（表2）。同期の累計を輸出先別で見ると、首位の米国向けは米国内の牛肉生産量の減少と堅調な需要により22万3817トン（同2.9%増）とわずかに増加した。一方、第2位の日本向けは1万7171トン（同3.0%減）とやや減少し、第3位のメキシコ向けは競合の米国産牛肉の輸入増などから1万3595トン（同13.5%減）とかなり大きく減少した。

24年の牛肉輸出量についてUSDAは、主要輸出先である米国向けの需要が堅調であることなどから、前年比4.0%増と前年をやや上回ると見込んでいる。

表2 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2023年 8月	24年 8月	前年同月比 (増減率)	シェア	24年 (1～8月)	
					前年同期比 (増減率)	
米国	28,982	28,333	▲2.2%	83.4%	223,817	2.9%
日本	2,265	1,314	▲42.0%	3.9%	17,171	▲3.0%
メキシコ	1,848	1,595	▲13.7%	4.7%	13,595	▲13.5%
韓国	576	1,056	83.3%	3.1%	9,212	4.7%
ベトナム	265	911	243.8% (約3.4倍)	2.7%	5,088	38.6%
台湾	60	130	116.7% (約2.2倍)	0.4%	835	20.8%
中国・香港	335	81	▲75.8%	0.2%	1,178	▲41.2%
その他	560	549	▲2.0%	1.6%	4,559	12.0%
合計	34,891	33,969	▲2.6%	100.0%	275,455	1.9%

資料：Statistics Canada
注：製品重量ベース。

（調査情報部 伊藤 瑞基）

牛肉生産量は増加、枝肉価格も上昇基調

24年7月の牛肉生産量、前年比12.0%増

欧州委員会によると、2024年7月の牛肉生産量（EU27カ国）は54万3270トン（前年同月比12.0%増）とかなり大きく増加した（図1）。同月の牛と畜頭数が183万7770頭（同11.1%増）とかなり大きく増加したことで、牛肉生産量の増加に寄与した。また、同年1～7月の累計の牛肉生産量は378万2000トン（前年同期比4.2%増）と前年同期をやや上回った。

欧州委員会が24年10月8日に公表した農畜産物の短期的見通し（注1）によると、上半期のと畜頭数増加の要因として、牛枝肉価格が高値で推移していることに加えて、トルコ向け輸出量の増加や中欧での放牧条件の悪化による早期出荷が挙げられている。同見通しによると、24年の牛肉生産量は飼養頭数の減少により、前年比0.5%減と予測されている。

一方、米国農務省海外農業局（USDA/

FAS）では、と畜頭数の増加と枝肉重量の増加により、24年の牛肉生産量を前年比2.2%増の660万トンと予測している。

（注1）海外情報「欧州委員会、食肉の短期的需給見通しを公表（EU）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003937.html）をご参照ください。

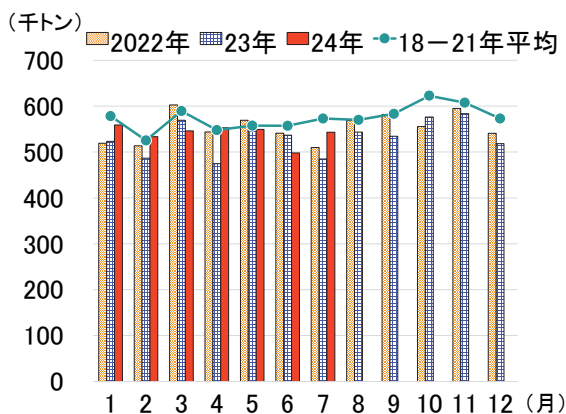
24年9月の枝肉卸売価格、前年同月比6.7%高

2024年9月の牛枝肉平均卸売価格（注2）は、100キログラム当たり517.32ユーロ（8万7029円：1ユーロ＝168.23円（注3）、前年同月比6.7%高）となった（図2）。24年に入り同価格は横ばい傾向が続いていたものの、8月から上昇に転じた。現地報道によると、と畜牛の需要が堅調に推移していることに加えて、冬場の需要増に向けた在庫の確保が例年より早い時期に始まったとされている。

（注2）若雄牛（A）、去勢牛（C）および若齢牛（Z）のうち枝肉の格付けが上（R）、枝肉の脂肪の付着度合が平均的（5段階中3）なものの平均価格（A/C/Z-R3）。

（注3）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年10月末TTS相場。

図1 牛肉生産量の推移

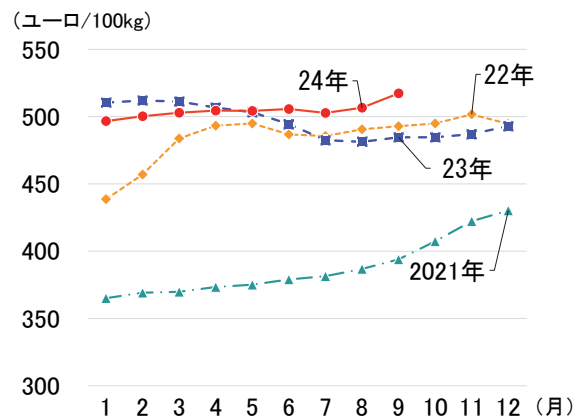


資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

図2 牛枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory - Beef and Veal」

注：EU参考価格。

24年8月の牛肉輸出量、アルジェリア向けが好調

2024年8月の牛肉輸出量は、4万67トン（前年同月比0.2%増）と前年同月並みとなった（表1）。主要輸出先のほとんどで前年同月を下回ったものの、2月にスペイン産牛肉の輸入を再開したアルジェリア向けが

好調となったことがプラスに働いた。24年の牛肉輸出量について欧州委員会は、前述の短期的見通しの中で、トルコ向けなどの輸出が堅調に推移するため、前年比10.0%増の57万7300トンと見込んでいる。

一方、同年8月の牛肉輸入量は、南米諸国からの輸入量の減少により、1万8673トン（同0.5%減）とわずかに減少した（表2）。

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

品目	輸出先	2023年 8月	24年 8月	前年同月比 (増減率)	2023年 (1～8月)	24年 (1～8月)	前年同期比 (増減率)
	トルコ	4,925	4,660	▲5.4%	23,531	53,600	127.8% (約2.3倍)
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	3,813	3,579	▲6.1%	22,811	22,385	▲1.9%
	アルジェリア	0	2,850	—	0	17,061	—
	スイス	1,254	1,644	31.1%	8,656	11,046	27.6%
	その他	3,319	2,970	▲10.5%	21,194	21,904	3.4%
	合計	26,397	27,489	4.1%	176,060	223,070	26.7%
冷凍	英国	5,895	5,627	▲4.5%	49,546	45,032	▲9.1%
	フィリピン	1,436	1,286	▲10.4%	6,960	9,349	34.3%
	カナダ	1,023	781	▲23.7%	4,615	4,670	1.2%
	香港	566	254	▲55.1%	3,640	4,053	11.3%
	日本	356	513	44.1%	3,076	3,825	24.3%
	その他	4,302	4,117	▲4.3%	31,825	33,412	5.0%
	合計	13,578	12,578	▲7.4%	99,662	100,341	0.7%
冷蔵・冷凍計		39,975	40,067	0.2%	275,722	323,411	17.3%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、冷蔵が0201、冷凍が0202。

表2 輸入先別牛肉輸入量の推移

（単位：トン）

品目	輸入先	2023年 8月	24年 8月	前年同月比 (増減率)	2023年 (1～8月)	24年 (1～8月)	前年同期比 (増減率)
	アルゼンチン	4,037	3,006	▲25.5%	31,130	30,110	▲3.3%
	ウルグアイ	1,097	1,066	▲2.8%	14,572	14,747	1.2%
	ブラジル	1,359	1,346	▲1.0%	10,371	11,259	8.6%
	米国	1,011	895	▲11.5%	9,312	7,964	▲14.5%
	その他	1,000	1,799	79.9%	8,038	11,095	38.0%
	合計	13,008	11,957	▲8.1%	111,550	114,276	2.4%
冷凍	ブラジル	3,229	1,968	▲39.1%	32,215	25,740	▲20.1%
	英国	1,126	1,123	▲0.3%	10,922	10,204	▲6.6%
	ウルグアイ	616	689	11.9%	7,551	8,315	10.1%
	ナミビア	334	1,444	332.3% (約4.3倍)	2,442	3,387	38.7%
	アルゼンチン	135	457	238.5% (約3.4倍)	1,996	3,306	65.6%
	その他	318	1,035	225.5% (約3.3倍)	4,261	6,972	63.6%
	合計	5,758	6,716	16.6%	59,387	57,924	▲2.5%
冷蔵・冷凍計		18,766	18,673	▲0.5%	170,937	172,200	0.7%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、冷蔵が0201、冷凍が0202。

（調査情報部 藤岡 洋太）

豪州

24年10月の成牛と畜頭数、過去4年間で最大を記録

24年10月の肉牛価格、過去5カ年を下回るものの安定して推移

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、豪州の肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、直近11月1日時点で1キログラム当たり633豪セント（651円：1豪ドル＝102.85円^{（注1）}）と過去5カ年平均を下回って推移した（図1）。一方で、10月は一定の降雨がみられたこともあり、牧草肥育農家の需要増により価格は上向きに転じつつある。また、後述すると畜頭数の増加は、牛群の維持または再構築を望む肥育農家の需要増の一因となるものであり、肥育農家のもと牛の導入意欲も高まっていると考えられる。加えて、豪州気象局（BOM）の見通しでは、11月は主要肉用牛生産地域であるクイーンズランド（QLD）州、ニューサウスウェールズ（NSW）州で平年

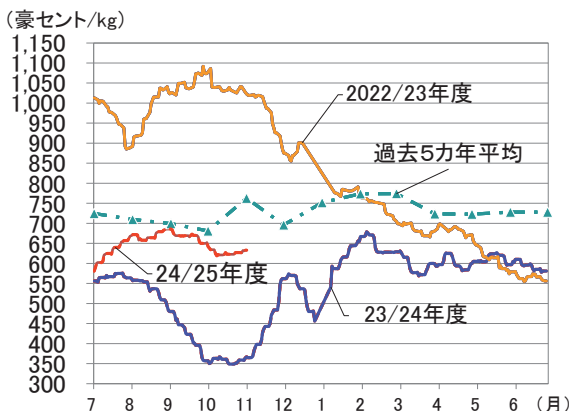
以上の降雨が予想されていることから、今後、肉牛価格は上昇傾向が強まる可能性がある。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年10月末TTS相場。

成牛と畜頭数、過去4年間で最大を記録

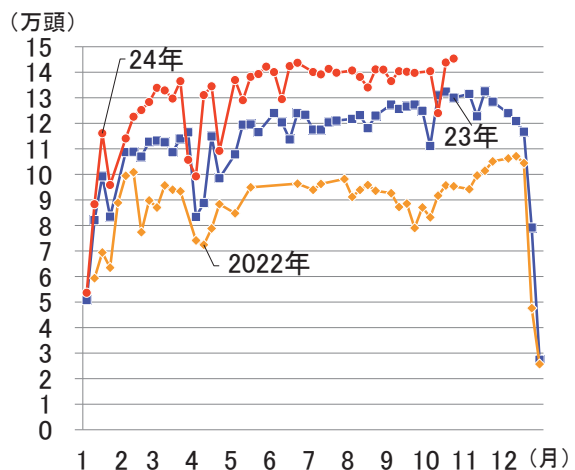
MLAによると、2024年10月の週間成牛と畜頭数は、同月第4週時点で14万5337頭と過去4年間で最大となった（図2）。中でもQLD州は、20年1月以降で最大となる7万7467頭（全体の53.3%）を記録し、豪州全体のと畜頭数をけん引した。この要因としては堅調な輸出が挙げられ、MLAの見通しでは、と畜頭数は年内まで好調を維持すると予想している。

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」
注1：年度は7月～翌6月。
注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

図2 成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」
注1：成牛のみ（仔牛は含まない）。
注2：年末および3～4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

牛肉輸出量は堅調に推移、中国・韓国向け牛肉にセーフガードが発動

豪州農林水産省（DAFF）によると、2024

年9月の牛肉輸出量は11万4046トン（前年同月比15.5%増）とかなり大きく増加し、24年7月、8月に続いて高水準を維持している（表）。

表 輸出先国別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2023年 9月	24年 9月	24年 (1～9月)		
			前年同月比 (増減率)	前年同期比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
米国	24,431	37,218	52.3%	272,194	66.8%
日本	16,276	17,104	5.1%	196,986	28.4%
中国	19,051	16,161	▲15.2%	137,353	▲9.6%
韓国	16,463	15,843	▲3.8%	143,315	4.0%
東南アジア	10,014	14,184	41.6%	105,295	22.5%
中東	3,076	2,958	▲3.8%	27,057	31.2%
E U	789	780	▲1.2%	9,717	50.7%
その他	8,612	9,798	13.8%	75,333	31.0%
輸出量合計	98,713	114,046	15.5%	967,250	24.5%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラアス・アル＝ハイマ））。

24年の累計（1～9月）で輸出先別に見ると、米国、日本向けが好調を維持しており、特に米国向けは前年同期比66.8%増と大幅に増加した。一部報道によると、米国東海岸での労使交渉を巡る港湾労働者のストライキが見込まれたことで、米国の輸入業者が一定の備蓄を確保するため9月の輸入量を増やす傾向があったことが一因とされている。

一方で、中国向けは、中国経済の減速により24年の累計（1～9月）で前年同期比9.6%減と減少傾向で推移しているが、9月の輸出量は前月（8月）と比較すると6.7%増と盛り返している。これは、豪州産牛肉に対する中国のセーフガード措置^(注2)発動を危惧した駆け込み輸入であったと考えられる。

実際に9月末時点でセーフガードは発動しており、12月末まで豪州産牛肉に対し12～25%の関税が課されることとなる。また、韓国向けも同様に10月末時点でセーフガード^(注3)が発動しており、これらの影響により、年内の通関が見込まれる11月半ばまで輸出量は鈍化の可能性があると予想されている。

（注2）海外情報「豪州牛肉に特別セーフガード発動（中国）」
(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002506.html)
をご参照ください。

（注3）海外情報「韓豪FTAは2014年内に発効予定、豪州牛肉産業に恩恵」
(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_001150.html)
をご参照ください。

（調査情報部 国際調査グループ）

豚 肉

米 国

24年8月の輸出量、ラテンアメリカ向けの増加により前年同月比6.2%増

24年9月の繁殖豚飼養頭数、前年同月比2.2%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2024年9月1日時点の豚飼養頭数は、7648万頭（前年同月比0.5%増）とわずかに増加した（表1）。内訳を見ると、繁殖豚は604万4000頭（同2.2%減）とわずかに減少し、肥育豚は

7043万7000頭（同0.7%増）とわずかに増加した。24年6～8月期の1腹当たり産子数は増加したものの、分娩母豚頭数の減少により産子数は前年同期比0.8%減となった。USDAによると、母豚の平均分娩間隔の短縮などにより1腹当たり産子数が増加した一方、肥育豚価格の下落から生産者の増頭意欲が低下し、分娩母豚頭数が減少したとされている。

表1 豚飼養頭数の推移

（単位：千頭）

区分	2022年	23年	24年	前年同月比 (増減率)
総飼養頭数（9月1日時点）	74,125	76,133	76,480	0.5%
繁殖豚	6,152	6,179	6,044	▲2.2%
肥育豚	67,973	69,954	70,437	0.7%
50ポンド（23kg）未満	21,893	22,542	22,194	▲1.5%
50～119ポンド （23～53kg）	19,677	20,505	20,232	▲1.3%
120～179ポンド （54～81kg）	14,013	14,492	14,997	3.5%
180ポンド（82kg）以上	12,390	12,415	13,014	4.8%
分娩母豚頭数（6～8月）	3,082	3,040	2,989	▲1.7%
産子数（6～8月）	34,319	35,295	35,030	▲0.8%
1腹当たり産子数（6～8月）（頭）	11.13	11.61	11.72	0.9%

資料：USDA「Hogs and Pigs」

注1：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

注2：産子数には事故などで死亡した子豚を含まない。

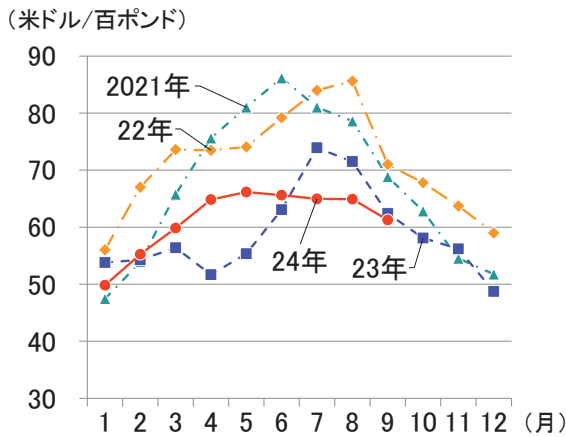
24年9月の肥育豚価格、前年同月比1.8%安

USDA/NASSによると、2024年9月の豚肉生産量は、と畜頭数、1頭当たり枝肉重量ともに前年同月を上回ったことで、101万2700トン（前年同月比2.1%増）とわずかに

増加した。その結果、2024年9月の肥育豚価格は100ポンド当たり61.27米ドル（1キログラム当たり209円：1米ドル＝154.64円^{（注）}、同1.8%安）となり、前月比では5.6%安とやや下落した（図）。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年10月末TTS相場。

図 肥育豚価格の推移



資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」
 注：平均的な枝肉（赤身率51～52%、背脂肪厚0.80～0.90インチ）が生産される肥育豚の推定取引価格。

24年8月の豚肉輸出量、前年同月比6.2%増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2024年8月の豚肉輸出量はメキシコやコロンビアの堅調な需要から25万4100トン（前年同月比6.2%増）とかなりの程度増加し、同年1～8月の累計では212万9100トン（前年同期比4.6%増）とやや増加した（表2）。24年の輸出量についてUSDAは、アジア向けの減少から前月予測より1万4000トン下方修正の324万4000トン（前年比4.8%増）と見込んでいる。

表2 輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：千トン）

国名	2023年8月	24年8月	前年同月比 (増減率)	シェア	24年(1～8月)	
					前年同期比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
メキシコ	95.0	99.3	4.6%	39.1%	793.8	6.5%
日本	41.0	38.3	▲6.8%	15.1%	333.6	▲2.9%
カナダ	21.7	21.3	▲2.2%	8.4%	155.5	▲3.1%
コロンビア	9.6	18.3	89.9%	7.2%	104.3	42.1%
中国	16.2	16.7	3.4%	6.6%	121.4	▲30.3%
韓国	16.2	15.5	▲4.4%	6.1%	224.0	28.2%
豪州	6.9	7.9	14.2%	3.1%	81.3	34.8%
ドミニカ共和国	8.2	7.6	▲8.2%	3.0%	80.1	▲5.9%
その他	24.4	29.4	20.5%	11.6%	235.1	7.7%
合計	239.2	254.1	6.2%	100.0%	2,129.1	4.6%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
 注1：枝肉重量ベース。
 注2：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

（調査情報部 小林 大祐）

中国

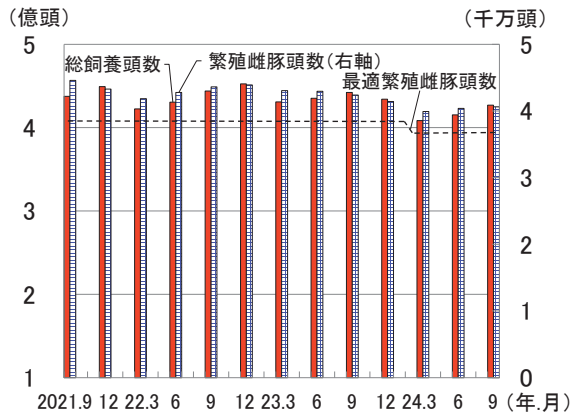
豚肉価格は引き続き前年同月を上回る水準で推移

24年9月末の繁殖雌豚頭数は前年同月比4.2%減

中国農業農村部によると、2024年9月末時点の繁殖雌豚頭数は4062万頭（前年同月

比4.2%減）と前年同月をやや下回った（図1）。同頭数は、同部が最適な水準としている3900万頭を約4.2%上回っている。

図1 豚飼養頭数の推移

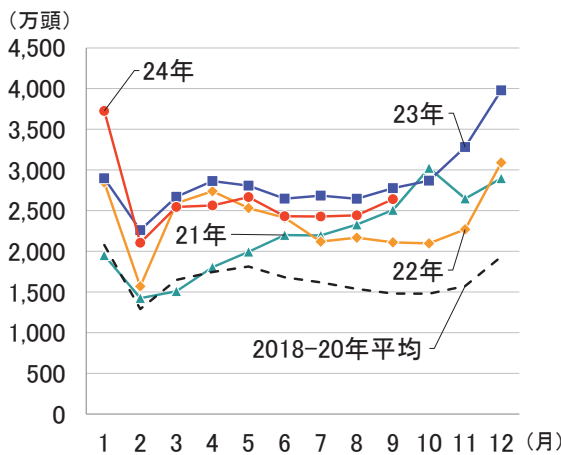


資料：中国国家统计局
 注1：四半期ごとの公表値。
 注2：2024年3月1日に中国農業農村部は「豚生産能力管理調整方策」を改訂し、最適繁殖雌豚頭数を4100万頭程度から3900万頭程度に引き下げた。

24年9月の豚と畜頭数は前年同月比4.9%減

2024年9月の豚と畜頭数は、2640万頭（前年同月比4.9%減）と前年同月をやや下回った（図2）。繁殖雌豚飼養頭数の減少により肥育豚飼養頭数が減少したことが、と畜頭数の減少につながったとみられる。

図2 豚と畜頭数の推移



資料：中国農業農村部
 注：年間2万頭以上処理すると畜場でのと畜頭数（全体のと畜頭数の約3割）。

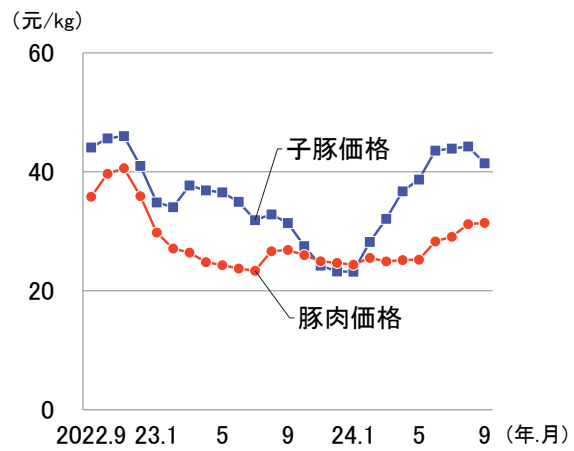
24年9月の豚肉価格は前年同月比16.9%高

2024年9月の豚肉価格は、前月比0.7%高の1キログラム当たり31.4元（686円：1元＝21.84円^{（注）}、前年同月比16.9%高）となった（図3）。この要因について中国農業農村部は、24年10月に公表した「農産物需給動向分析月報（2024年9月）」で、豚と畜頭数が少ない中、9月からの学校給食向けや、中秋節・国慶節向けの需要が増加したためとしている。

一方、豚肉生産にも影響する子豚価格を見ると、24年9月は前月比6.4%安の同41.4元（904円、同32.0%高）となった。今後の子豚価格について同部は、24年3月以降、子豚の生産頭数が順調に増加し、特に6月以降は増加が加速しているため短期的には下落するが、春節などの季節的な需要期に向けて上昇に転じると予測している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年10月末TTS相場。

図3 豚肉および子豚価格の推移



資料：中国農業農村部

24年1～9月の豚肉輸入量は前年同期比38.0%減

2024年1～9月の豚肉輸入量は78万4989トン（前年同期比38.0%減）となり、最大の輸入先であるスペインをはじめ、主要輸入先のすべてで前年同期を大幅に下回った

（表）。このうち直近8月の豚肉輸入量は9万2252トン（前年同月比15.8%減）、9月は10万1142トン（同2.3%減）と減少幅は縮小傾向にある。この要因について現地報道では、国内の豚肉価格の上昇などを受け、輸入豚肉の需要が増加したためとしている。

表 主要輸入先別豚肉輸入量の推移

（単位：万トン）

国名	2020年	21年	22年	23年	24年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	93.3	109.7	46.9	37.8	21.5	▲ 30.4%
ブラジル	48.0	54.6	41.7	40.2	18.7	▲ 42.1%
オランダ	26.5	27.7	12.3	12.0	5.8	▲ 42.9%
カナダ	41.0	23.6	11.4	13.2	5.3	▲ 21.4%
チリ	16.5	13.8	7.2	8.4	5.3	▲ 52.6%
米国	69.6	39.8	12.6	12.3	4.8	▲ 54.5%
その他	135.3	88.1	42.3	30.1	17.1	▲ 31.3%
合計	430.2	357.3	174.4	154.1	78.5	▲ 38.0%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは0203。

（調査情報部 平山 宗幸）

牛乳・乳製品

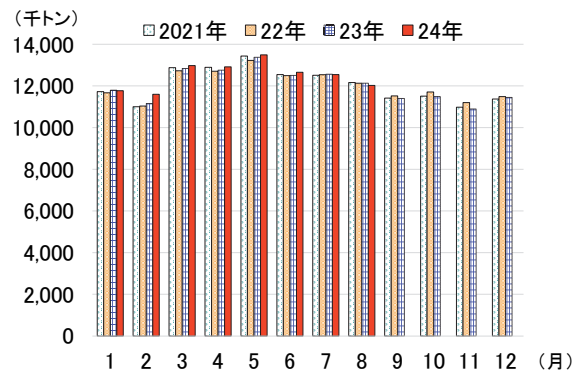
EU

24年8月の生乳出荷量2カ月連続で前年同月を下回る

24年8月の生乳出荷量、前年同月比0.9%減

欧州委員会によると、2024年8月の生乳出荷量（EU27カ国）は、1202万1000トン（前年同月比0.9%減）と2カ月連続で前年同月をわずかに下回った（図1、表）。主要生産国別に見ると、フランス（同0.8%増）とポーランド（同3.5%増）はいずれも前年同月を上回った一方、その他の主要生産国

図1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

では前年同月を下回った。

米国農務省農業マーケティング局 (USDA/AMS) によると、EU加盟国の多くの地域で7月と8月の気温が平年を上回ったことに加え、中欧北部全域にわたるブルータング^(注1)の発生や季節的な動向により生乳

出荷量が減少しているとされる。

(注1) 牛、羊、ヤギなどの反すう動物で発生するウイルス性の感染症。ウイルスは吸血昆虫によって媒介され、接触感染はない。感染すると、発熱、目やにや鼻水の漏水、口および鼻腔内に潰瘍ができるなどの症状がある。乳牛への感染により、泌乳量が減少するという。

表 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：千トン)

国名	2023年 8月	24年 8月	前年同月比 (増減率)	24年 (1～8月)	
				前年同月比 (増減率)	前年同月比 (増減率)
ドイツ	2,702	2,668	▲1.3%	22,071	▲0.1%
フランス	1,847	1,862	0.8%	16,257	1.3%
ポーランド	1,093	1,131	3.5%	9,220	4.1%
オランダ	1,151	1,107	▲3.9%	9,299	▲1.8%
イタリア	1,040	984	▲5.4%	8,899	4.5%
アイルランド	936	915	▲2.2%	6,397	▲4.7%
スペイン	601	598	▲0.5%	5,064	1.8%
デンマーク	487	484	▲0.7%	3,862	0.0%
ベルギー	386	375	▲2.8%	3,186	0.3%
その他	1,892	1,898	0.3%	15,711	1.8%
合計	12,136	12,021	▲0.9%	99,965	0.8%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

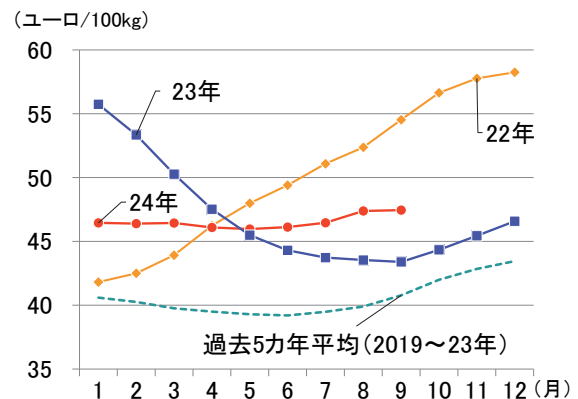
注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

24年9月の生乳取引価格、前年同月比9.4%高

欧州委員会によると、2024年9月の生乳取引価格 (EU27カ国の平均) は、100キログラム当たり47.45ユーロ (1キログラム当たり79.8円：1ユーロ＝168.23円^(注2)、前年同月比9.4%高) と5カ月連続で前年同月を上回った (図2)。前月比では、バターを中心とした乳製品価格が横ばいになったことに連動して0.1%の上昇にとどまったが、8月の生乳出荷量の減少が生乳取引価格を下支えしているとみられる。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年10月末TTS相場。

図2 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

注1：直近月は推定値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

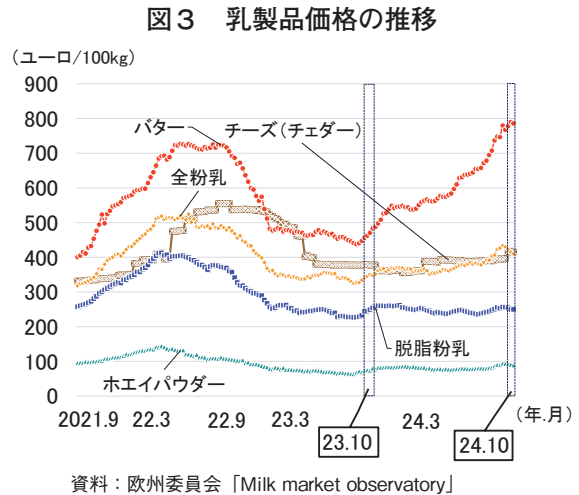
24年10月の乳製品価格、粉乳は低下もバターは高止まり

欧州委員会によると、2024年10月20日の週の乳製品価格 (EU27カ国の平均) は、

脱脂粉乳が100キログラム当たり250ユーロ（1キログラム当たり421円、前年同期比1.8%安）と前年同期をわずかに下回ったものの、全粉乳が同410ユーロ（同690円、同17.7%高）、チーズが同415ユーロ（同698円、同9.9%高）、ホエイパウダーが同90ユーロ（同151円、同11.8%高）といずれも前年同期を上回った（図3）。

中でもバターは、同786ユーロ（同1322円、同62.5%高）と前週から低下したものの、依然として前年同期を大幅に上回っている。USDA/AMSによると、バターの需要は依然として強く、生乳出荷量の減少などから在庫が不足しており、また、クリーム価格の高騰から、バターに仕向けられる生乳が減少していることが価格上昇の要因とされている。

一方、全粉乳は、依然として輸出競争力が弱く、輸出需要は限定的とされている。



（調査情報部 渡辺 淳一）

豪州

生乳生産量は引き続き増加、主要乳製品4品目の輸出量も増加

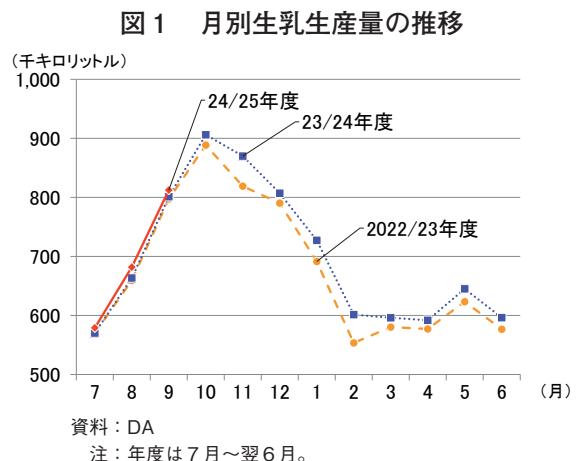
24年9月の生乳生産量、前年同月比1.4%増

デイリー・オーストラリア（DA）が2024年10月に公表した「Milk Production Reports」によると、24年9月の生乳生産量は、前年同月比1.4%増の81万2462キロリットル（83万6836トン相当）となり、14カ月連続で前年同月を上回った（図1）。

この結果、24/25年度（7月～翌6月）の9月までの累計生乳生産量は、前年度比1.9%増の207万3454キロリットル（213万5657トン相当）となった。

24/25年度の生乳生産量について豪州農業資源経済科学局（ABARES）は、24年9月に公表した「Agricultural Commodities

Report」の中で、前年度比1%減の830万キロリットル（855万トン相当）と予測している。この理由についてABARESは、良好な気象条件を背景とした牧草地の安定的な利用により1頭当たりの乳量増加が見込まれる一方、土地価格の高騰により酪農場の売却



が進み、乳牛の飼養頭数がさらに減少するためとしている。

24年8月の主要乳製品の輸出量、全品目で大幅増

DAが2024年10月に公表した「Dairy Export Summary」によると、24年8月の主要乳製品4品目の輸出量は、全品目で前年同月を大幅に上回った（表、図2）。

脱脂粉乳は、中国向けが大きく減少したものの、東南アジア向けが大きく増加したことを受け、前年同期比で大幅に増加した。

全粉乳は、中国やベトナム向けは減少したものの、アラブ首長国連邦やタイ向けなどが増加したことを受け、大幅に増加した。バターおよびバターオイルは、東南アジアや米国向けが好調であったことを受け、大幅に増加した。チーズは、主要輸出先である日本や中国などアジア向けが堅調に推移したことを受け、大幅に増加した。

一方、24/25年度の乳製品輸出量についてABARESは、生乳生産量の減少を受けて前年度比2%減少すると予測している。

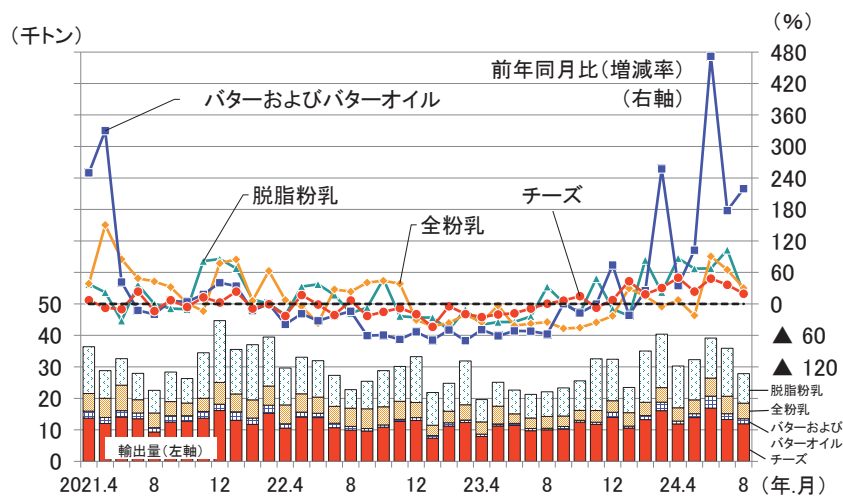
表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品目	2023年 8月	24年 8月	前年同月比 (増減率)	24/25年度 (7月～8月)	
				24,599	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	7,844	9,401	19.8%	24,599	60.4%
全粉乳	3,771	4,912	30.3%	10,451	46.6%
バターおよびバターオイル	505	1,613	219.6%	3,479	195.7%
チーズ	9,985	11,934	19.5%	25,214	27.8%

資料：DA
注：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：DA
注：製品重量ベース。

(調査情報部 平山 宗幸)

生乳生産量は好調、GDT平均価格は前回開催並み

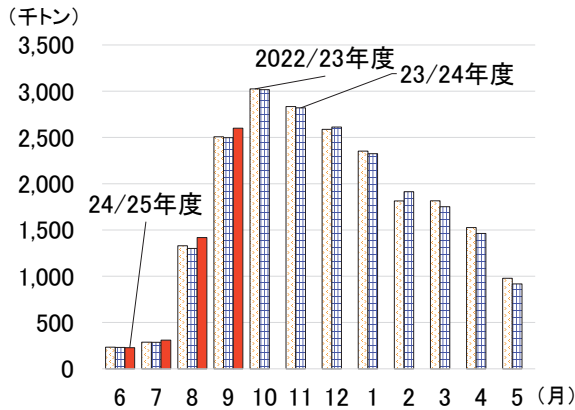
24年9月の生乳生産量、3カ月連続で前年を上回る

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2024年9月の生乳生産量は260万トン（前年同月比4.1%増）とやや増加し、9月としては20年以降で最も高い水準となった（図1）。この要因についてニュージー

ランド証券取引所（NZX）は、先月と同様に乳牛の早期分娩と冬期の牧草生育が良好となったことが生産量の増加につながったとしている。

また、今後の生乳生産の見通しとしてNZXは、順調な生乳生産量が見込まれる一方、降雨量が増加するラニーニャ現象の発生を懸念している。

図1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ

注：年度は6月～翌5月。

24年9月の乳製品輸出量、バターおよびチーズが上昇

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2024年9月の乳製品輸出量は、最大の輸出先である中国向けの減少により、脱脂粉乳および全粉乳が前年同月を下回った（表、図2）。一方、バターは、メキシコや米国向けが大幅に増加し、チーズは、主要輸出先である日本向けを中心に増加した。

表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品目	2023年 9月	24年 9月	前年同月比 (増減率)
脱脂粉乳	20,157	16,965	▲15.8%
全粉乳	67,268	60,259	▲10.4%
バターおよびバターオイル	21,433	26,149	22.0%
チーズ	19,751	23,194	17.4%

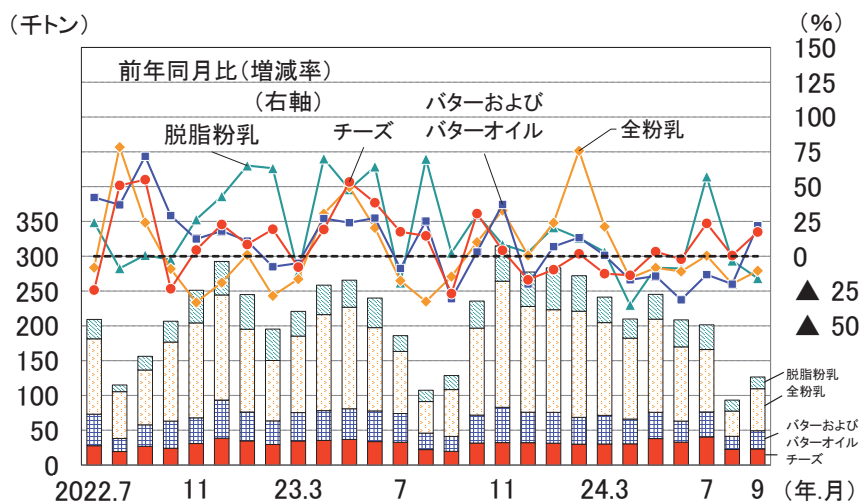
資料：Stats NZ

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

注3：年度は7月～翌6月。

図2 乳製品輸出力および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ
注：製品重量ベース。

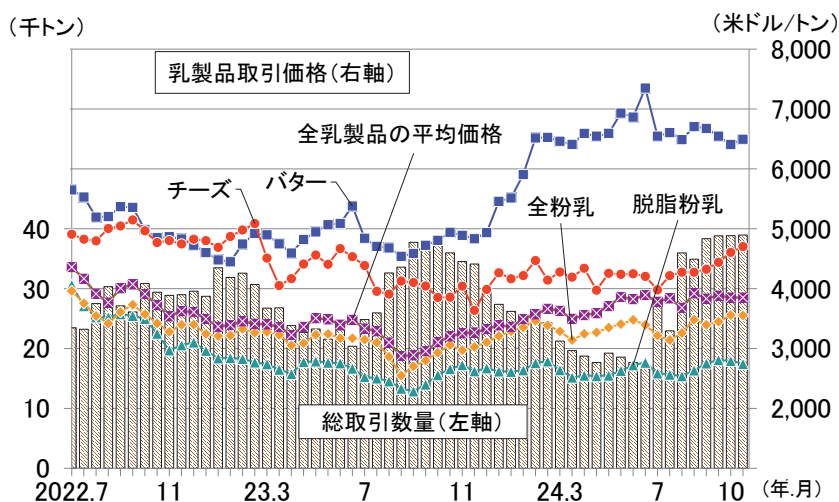
24年10月15日のGDT平均価格、バターとチーズが上昇

2024年10月15日開催のGDT^(注1) 平均取引価格は、バターおよびチーズが前回開催時（同年10月1日）を上回った（図3）。特にチーズは、世界最大の生産地域である米国と欧州での需給ひっ迫などから引き続き需要が増加しており、1トン当たり4702米ドル（72万

7117円：1米ドル＝154.64円^(注2)、前回比2.1%高）となった。この結果、全乳製品の平均取引価格は1トン当たり3852米ドル（59万5673円、前回比0.0%高）と前回並みとなった。

（注1）グローバルデリートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年10月末TTS相場。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT

（調査情報部 田中 美宇）

アルゼンチン

24年1～9月の生乳生産量は前年同期比9.5%減、生乳価格は大幅上昇

24年1～9月の生乳生産量、悪天候や経済の混乱などにより減少

アルゼンチン経済省によると、2024年1～9月の生乳生産量は751万5900キロリットル（前年同期比9.5%減）と前年同期をかなりの程度下回った（図1）。これは、主要生産地において年初を中心に干ばつによる降水量不足から牧草の生育状況が悪化したことや、23年12月の新政権発足後も、インフレ状況の継続などで同国経済が混乱し、生産者の経営収支が悪化したことなどが要因とされる。その後の生乳生産量は回復基調で推移したものの、直近の状況を見ると、主要生産地であるパンパ北部地域では降水量不足の状況にあり、生乳生産への影響が懸念されている。

近年の生乳生産量を見ると、20～21年は良好な天候に恵まれたことや堅調な乳製品需要を背景とした生産者の増産意欲の高まりから、2年連続での増産、22年は前年並みとなった。23年の生乳生産量は、干ばつや

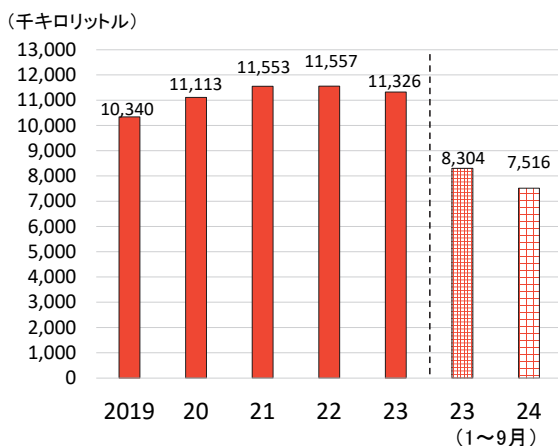
不安定な経済状況を反映して1132万6000キロリットル（前年比2.0%減）と前年をわずかに下回った。

24年1～9月のチーズ輸出量は引き続き増加傾向で推移

2024年1～9月の主要乳製品輸出量は、全粉乳（前年同期比19.5%増）およびチーズ（同24.0%増）が前年同期を大幅に上回る一方、バター（同30.9%減）は大幅に下回った（表1）。また、最大の輸出品目である全粉乳は、輸出先第1位のブラジル向けが4万8063トン（同0.2%減）、これに続くアルジェリア向けが2万4495トン（同69.9%増）と、この2カ国で全体の94.5%を占めた（表2）。アルジェリア向けは、23年にニュージーランドとの競合などにより大幅に減少したが、24年は回復基調で推移している。また、チーズは、モッツアレラチーズやセミハードチーズを中心に20年以降増加傾向で推移している。最大の輸出先であるブラジル向けが3万8096トン（同50.3%増）、これに続くチリ向けが1万2037トン（同9.8%増）と、この2カ国で全体の89.5%を占めた。

23年の主要乳製品輸出量は、チーズ（前年比12.3%増）およびホエイ（同4.7%増）が増加する一方、全粉乳（同27.6%減）およびバター（同51.8%減）が減少した。チーズは4年連続で増加し、直近5年間で最大の輸出量を記録している。

図1 生乳生産量（年別）の推移



資料：アルゼンチン経済省

表1 主な乳製品の品目別輸出量の推移

(単位：千トン)

品目	2019年	20年	21年	22年	23年	前年比 (増減率)	23年	24年	前年同期比 (増減率)
							(1～9月)	(1～9月)	
全粉乳	85.3	126.4	128.4	132.9	96.2	▲27.6%	64.3	76.8	19.5%
チーズ	39.4	44.9	52.2	56.7	63.7	12.3%	45.2	56.0	24.0%
ホエイ	41.6	32.5	40.0	37.8	39.6	4.7%	30.4	30.6	0.8%
バター	8.2	14.0	15.9	11.6	5.6	▲51.8%	3.7	2.6	▲30.9%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：各品目に該当するHSコードは、全粉乳：HS0402.21/0402.29、チーズ：HS0406、ホエイ：HS0404、バター：HS0405。

注2：製品重量ベース。

表2 全粉乳およびチーズの主な輸出先別輸出量

(単位：トン)

	全粉乳				チーズ			
	輸出相手先	2023年 (1～9月)	24年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)	輸出相手先	23年 (1～9月)	24年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)
1	ブラジル	48,175	48,063	▲0.2%	ブラジル	25,341	38,096	50.3%
2	アルジェリア	14,418	24,495	69.9%	チリ	10,965	12,037	9.8%
3	ベネズエラ	0	2,052	—	パラグアイ	1,222	1,560	27.7%
4	カメルーン	0	600	—	ペルー	316	920	191.1% (約2.9倍)
5	コートジボワール	0	375	—	ロシア	1,189	288	▲75.8%
	全体	64,250	76,765	19.5%	全体	45,181	56,046	24.0%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：各品目に該当するHSコードは、全粉乳：HS0402.21/0402.29、チーズ：HS0406。

注2：製品重量ベース。

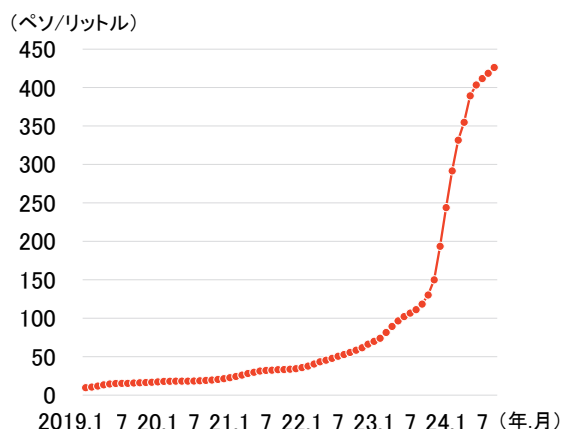
生産者乳価は引き続き上昇し、高値で推移

アルゼンチン経済省によると、2024年9月の生産者乳価は、1リットル当たり426.20ペソ（68円：1ペソ＝0.16円^注）、前年同月比260.1%高）と同約3.6倍になった（図2）。生産者乳価は18年ごろから上昇傾向となり、23年後半からこの傾向が一層顕著となった。これは、近年のアルゼンチンでの、高水準のインフレ率（21年：年50.9%、22年：同94.8%、23年：同211.4%）を背景としたものである。23年12月の新政権が発足後、積極的な経済改革が行われ、インフレ率は沈静化してきているものの、依然として年ベースでは高水準となっており、生産者乳

価格に影響を及ぼしているとみられる。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年10月末TTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図2 生産者乳価の推移



資料：アルゼンチン経済省

(調査情報部 井田 俊二)

飼料穀物

世界

生産量、期末在庫は引き続き微減も高水準の見通し

米国農務省世界農業観測ボード (USDA/WAOB) および米国農務省海外農業局 (USDA/FAS) は2024年10月11日、24/25年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した(表)。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億1719万トン(前年度比0.7%減)と前月から138万トン下方修正された。このうち、単収が引き上げられた米国やインドは前月から上方修正されたものの、ウクライナやロシア、フィリピンでの下方修正が影響した。

輸入量は、世界全体で1億8384万トン(同4.7%減)と前月から156万トン下方修正された。このうち、中国などの下方修正がエジプト

の上方修正を上回った。

消費量は、世界全体で12億2332万トン(同0.5%増)と前月から347万トン上方修正された。このうち、中国や米国は前月から据え置かれ、ブラジルやアルゼンチンなどの上方修正がエジプトなどの下方修正を上回った。

輸出量は、世界全体で1億9050万トン(同2.7%減)と前月から87万トン下方修正された。米国が上方修正されたものの、ウクライナの下方修正などが影響した。

この結果、期末在庫は3億652万トン(同2.0%減)と前月から183万トン下方修正されたものの、引き続き高水準が見込まれている。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2024年10月11日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

国名	2022/23年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度			
			(9月予測)	(10月予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	34.98	34.55	46.02	44.72	29.4%
	生産量	346.74	389.67	385.73	386.18	▲ 0.9%
	輸入量	0.98	0.72	0.64	0.64	▲ 11.1%
	消費量	305.93	322.00	321.71	321.71	▲ 0.1%
	輸出量	42.22	58.23	58.42	59.06	1.4%
	期末在庫	34.55	44.72	52.26	50.77	13.5%
アルゼンチン	期首在庫	3.97	10.04	4.84	5.84	▲ 41.8%
	生産量	137.00	122.00	127.00	127.00	4.1%
	輸入量	1.33	1.30	1.50	1.50	15.4%
	消費量	78.00	81.50	81.50	82.50	1.2%
	輸出量	54.26	46.00	49.00	49.00	6.5%
	期末在庫	10.04	5.84	2.84	2.84	▲ 51.4%
ブラジル	期首在庫	4.75	2.32	1.54	4.09	76.3%
	生産量	37.00	50.00	51.00	51.00	2.0%
	輸入量	0.02	0.02	0.01	0.01	▲ 50.0%
	消費量	14.20	16.25	14.80	16.30	0.3%
	輸出量	25.24	32.00	36.00	36.00	12.5%
	期末在庫	2.32	4.09	1.74	2.79	▲ 31.8%
ウクライナ	期首在庫	7.80	2.80	1.56	1.46	▲ 47.9%
	生産量	27.00	32.50	27.20	26.20	▲ 19.4%
	輸入量	0.02	0.02	0.02	0.02	0.0%
	消費量	4.90	4.25	4.05	4.05	▲ 4.7%
	輸出量	27.12	29.60	24.00	23.00	▲ 22.3%
	期末在庫	2.80	1.46	0.73	0.63	▲ 56.8%
EU	期首在庫	11.51	8.03	7.48	7.48	▲ 6.8%
	生産量	52.33	61.45	59.00	59.00	▲ 4.0%
	輸入量	23.19	19.50	19.00	19.00	▲ 2.6%
	消費量	74.80	77.10	75.30	75.30	▲ 2.3%
	輸出量	4.20	4.40	3.30	3.30	▲ 25.0%
	期末在庫	8.03	7.48	6.88	6.88	▲ 8.0%
中国	期首在庫	209.14	206.04	211.36	211.36	2.6%
	生産量	277.20	288.84	292.00	292.00	1.1%
	輸入量	18.71	23.50	21.00	19.00	▲ 19.1%
	消費量	299.00	307.00	313.00	313.00	2.0%
	輸出量	0.01	0.02	0.02	0.02	0.0%
	期末在庫	206.04	211.36	211.34	209.34	▲ 1.0%
世界計	期首在庫	313.92	304.09	309.63	312.65	2.8%
	生産量	1,160.67	1,225.92	1,218.57	1,217.19	▲ 0.7%
	輸入量	173.39	192.81	185.40	183.84	▲ 4.7%
	消費量	1,170.50	1,217.35	1,219.85	1,223.32	0.5%
	輸出量	180.24	195.77	191.37	190.50	▲ 2.7%
	期末在庫	304.09	312.65	308.35	306.52	▲ 2.0%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

(調査情報部 岡田 真希奈)

前月に続き大きな変化は見られず、大豆の期末在庫は大幅増の見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2024年10月11日、24/25年度の世界の大豆需給予測値を更新

した（表）。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億2892万トン（前年度比8.7%増）と前月から28万トン下方修正された。このうち、

表 主要国の大豆需給見通し（2024年10月11日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2022/23年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度			
			(9月予測)	(10月予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	7.47	7.19	9.26	9.31	29.5%
	生産量	116.22	113.27	124.81	124.70	10.1%
	輸入量	0.67	0.57	0.41	0.41	▲ 28.1%
	消費量	60.20	62.24	66.00	66.00	6.0%
	輸出量	53.87	46.13	50.35	50.35	9.1%
	期末在庫	7.19	9.31	14.97	14.97	60.8%
ブラジル	期首在庫	27.38	36.82	27.87	27.96	▲ 24.1%
	生産量	162.00	153.00	169.00	169.00	10.5%
	輸入量	0.15	0.87	0.15	0.15	▲ 82.8%
	消費量	53.41	54.70	54.00	54.00	▲ 1.3%
	輸出量	95.50	104.17	105.00	105.00	0.8%
	期末在庫	36.82	27.96	33.92	34.01	21.6%
アルゼンチン	期首在庫	23.69	17.00	24.35	24.45	43.8%
	生産量	25.00	48.10	51.00	51.00	6.0%
	輸入量	9.06	7.40	6.00	6.00	▲ 18.9%
	消費量	30.32	35.70	40.00	40.00	12.0%
	輸出量	4.19	5.10	4.50	4.50	▲ 11.8%
	期末在庫	17.00	24.45	29.25	29.35	20.0%
中国	期首在庫	25.15	32.34	42.88	43.31	33.9%
	生産量	20.28	20.84	20.70	20.70	▲ 0.7%
	輸入量	104.50	112.00	109.00	109.00	▲ 2.7%
	消費量	96.00	99.00	103.00	103.00	4.0%
	輸出量	0.09	0.07	0.10	0.10	42.9%
	期末在庫	32.34	43.31	45.68	46.01	6.2%
世界計	期首在庫	92.55	100.92	112.25	112.37	11.3%
	生産量	378.70	394.71	429.20	428.92	8.7%
	輸入量	167.82	177.41	177.74	177.61	0.1%
	消費量	315.32	330.42	346.67	346.38	4.8%
	輸出量	171.76	176.87	181.63	181.53	2.6%
	期末在庫	100.92	112.37	134.58	134.65	19.8%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

最大の生産国であるブラジルは1億6900万トン（同10.5%増）と前月から据え置かれたが、これに次ぐ米国は1億2470万トン（同10.1%増）と11万トン下方修正された。また、アルゼンチンは5100万トン（同6.0%増）、中国は2070万トン（同0.7%減）といずれも据え置かれた。

輸入量は、世界全体で1億7761万トン（同0.1%増）と前月から13万トン下方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は1億900万トン（同2.7%減）と前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億4638万トン（同4.8%増）と前月から29万トン下方修正された。このうち、最大の消費国である中国は1億300万トン（同4.0%増）と前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億8153万トン（同2.6%増）と前月から10万トン下方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジルは1億500万トン（同0.8%増）、これに次ぐ米国は5035万トン（同9.1%増）といずれ

も前月から据え置かれた。

この結果、期末在庫は1億3465万トン（同19.8%増）と前月から7万トン上方修正された。これは、前年度期末在庫（今年度期首在庫）の上方修正が反映されている。

今回の予測では、市場関係者の予想を上回る生産量や期末在庫とされたことで、USDAは米国の生産者販売価格を前年度比12.9%安の1ブッシェル当たり10.80米ドル（1670円、1キログラム当たり66円：1米ドル＝154.64円^(注)）に据え置いている。

また、今回の予測値に関して中国の輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した同年度の中国の大豆輸入量9460万トンとの乖離^{かいり}があり、期末在庫が高い水準にある中で、引き続きこの動向が注目される。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年10月末TTS相場。

(調査情報部 横田 徹)

米 国

単収の上方修正で生産量も増加、輸出量も高水準を維持

USDA/WAOBは2024年10月11日、24/25年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを公表した（表）。

生産量は、作付面積および収穫面積が前月から据え置かれたものの、単収の上方修正から152億300万ブッシェル（3億8617万トン^(注1)、前年度比0.9%減）と前月から上方修正され、前年度をわずかに下回ると見込まれている。

米国内消費量は、126億6500万ブッシェル

（3億2170万トン、同0.1%減）と前月から据え置かれ、前年度並みと見込まれている。

輸出量は、23億2500万ブッシェル（5906万トン、同1.4%増）と前月から上方修正され、前年度をわずかに上回る高水準とされている。

この結果、期末在庫は19億9900万ブッシェル（5078万トン、同13.6%増）と前月から下方修正されたものの、前年度をかなり大きく上回ると見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、13.3%（同1.5ポイント増）と前月から0.4ポイント下方修正されたが、前年度を上回ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり4.10米ドル（634円、1キログラム当たり25.0円：1米ドル＝154.64円^{（注2）}、同

9.9%安）と前月から据え置かれ、前年からのかなりの程度下落することが見込まれている。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラム、1エーカーを約0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。
（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年10月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2024年10月11日米国農務省公表）

区分	(単位)	2022/23年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度			
				(9月予測)	(10月予測)	参考(換算値)	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	88.2	94.6	90.7	90.7	36.71 (百万ヘクタール)	▲4.1%
収穫面積	(百万エーカー)	78.7	86.5	82.7	82.7	33.47 (百万ヘクタール)	▲4.4%
単収	(ブッシェル/エーカー)	173.4	177.3	183.6	183.8	11.54 (トン/ヘクタール)	3.7%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,377	1,360	1,812	1,760	44.71 (百万トン)	29.4%
生産量	(百万ブッシェル)	13,651	15,341	15,186	15,203	386.17 (百万トン)	▲0.9%
輸入量	(百万ブッシェル)	39	28	25	25	0.64 (百万トン)	▲10.7%
総供給量	(百万ブッシェル)	15,066	16,729	17,022	16,989	431.54 (百万トン)	1.6%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,044	12,676	12,665	12,665	321.70 (百万トン)	▲0.1%
飼料等向け	(百万ブッシェル)	5,486	5,814	5,825	5,825	147.96 (百万トン)	0.2%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,558	6,862	6,840	6,840	173.74 (百万トン)	▲0.3%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,176	5,471	5,450	5,450	138.44 (百万トン)	▲0.4%
輸出力	(百万ブッシェル)	1,662	2,292	2,300	2,325	59.06 (百万トン)	1.4%
総消費量	(百万ブッシェル)	13,706	14,969	14,965	14,990	380.76 (百万トン)	0.1%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,360	1,760	2,057	1,999	50.78 (百万トン)	13.6%
期末在庫率	(%)	9.9	11.8	13.7	13.3		1.5ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	6.54	4.55	4.10	4.10	25.0 (円/kg)	▲9.9%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で表1と一致しない場合がある。

(調査情報部 岡田 真希奈)

トウモロコシおよび大豆の価格動向

24年9月の国産トウモロコシ価格、新穀の供給増でやや下落

中国農業農村部は10月23日、「農産物需給動向分析月報(2024年9月)」を公表した。この中で、24年9月の国産トウモロコシ価格は前月からやや下落した(図1)。同月のトウモロコシ需給を見ると、トウモロコシの収穫が最盛期に入り、新穀の供給が潤沢となったことで、市場への供給量は十分な状況とされている。需要面では、飼料企業からの需要は限定的ながらも増加しているが、コーンスターチ製造企業を含め、いずれも在庫を抱えず、必要量のみを都度購入している状況とされている。このため、当面の国産トウモロコシ価格は、供給量が増加する中で、飼料企業などの需要は若干の増加にとどまることから、比較的低調な推移が見込まれている。

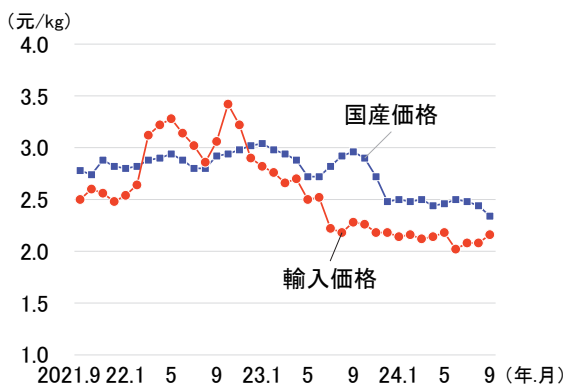
輸入トウモロコシ価格を見ると、主要養豚生産地の中国南部向け飼料原料集積地となる

かんとうん こうほ
広東省黄埔港到着(関税割当数量内:1%の関税+25%の追加関税)は、24年9月が1キログラム当たり2.16元(47円:1元=21.84円^(注)、前月比3.8%高)となった。また、同月の国産トウモロコシ価格(東北部産の同港到着価格)が同2.34元(51円、同4.1%安)とやや下落したことで、輸入と国産の価格差は前月の同0.36元(8円)から同0.18元(4円)に縮小した。

24年9月の国産大豆価格、新穀の供給開始でわずかに下落

2024年9月の国産大豆価格は、前月からわずかに下落した(図2)。同月の大豆需給を見ると、供給面では、東北の主産地で収穫が始まり、新穀が次々と市場に出回り始めている。需要面では、旧穀から新穀への移行期にあり、需要者はおおむね様子見の姿勢で、必要に応じた購入に重点を置いているとされる。今後、市場への供給量が徐々に増加することで、当面の国産大豆価格は短期的には安定を維持するものの、弱含みでの推移が

図1 トウモロコシ価格の推移

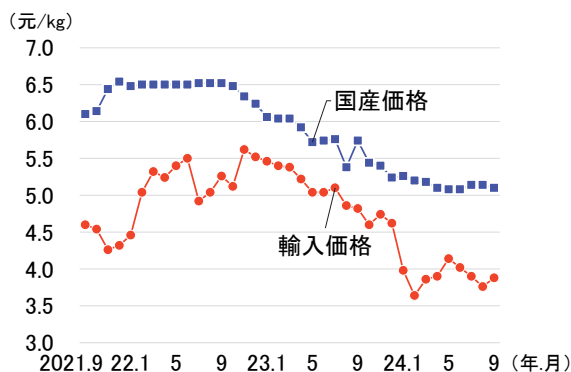


資料:中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1:国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2:輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格(関税割当数量内:課税後)。

図2 大豆価格の推移



資料:中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1:国産価格は、山東省入荷価格。

注2:輸入価格は、山東省青島港引渡し価格(課税後)。

見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、24年9月が1キログラム当たり4.66元（102円、前年同月比8.9%安）と前年同月をかなりの程度下回った。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同5.10元（111円、同11.3%安）と前年同月をかなり大きく下回った。同月の輸入大豆価格（山東省青島港引き渡し価格、課税後）が同3.88元（85円）となったことで、輸入と国産の価格差は前月の同1.38元（30円）から同1.23元（27円）に縮小した。

なお、国産大豆価格は、今回の公表で23

年9月分以降は各月とも上方修正されている。

国際相場に影響する大豆の輸入量は、前年に比べてわずかに低い水準にある。24年（1～8月）の輸入量は7048万トン（前年同期比2.8%増）、輸入額は同15.4%減の360億1800万米ドル（5兆5698億円：1米ドル＝154.64円^(注)）と報告されている。主な輸入先はブラジル（総輸入量の76.3%）、米国（同18.2%）、カナダ（同1.4%）である。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年10月末TTS相場。

（調査情報部 横田 徹）